第57回
医学教育セミナーとワークショップ
開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。第57回医学教育セミナーとワークショップは、岐阜大学で開催いたしますので、奮ってご参加下さい。今回はMEDCの新たな取り組みのアソシエイトとフェローシップについての案内もいたします。

岐阜大学 医学教育開発研究センター　藤崎和彦

日 程　2015年8月7日（金）～9日（日）

会 場　岐阜大学（医学部キャンパス）

2015 夏

WS-1　アクティブラーニング：やる気・関わり・深い学び FELLOWSHIP T／L

WS-2　臨床研修事務WS M／L

WS-3　シナリオベースで学ぶ多職種連携教育ファシリテーション T／L

WS-4　研究手法としてのインタビューをより効果的にするために R

WS-5　歯科医療面接をどのように段階的に学ぶべきか？ C D
－医療コミュニケーション、診断推論そして行動変容

WS-6　未来の医師を現在どう育てるか?変化への適応能力は万全か M／L

WS-7　卒業時OSCE実施の実際とパフォーマンス充実のための工夫 A
－日本の国情に合った理想的OSCE実施のポイントと各科医学教育の質保証－

WS-8　医学部で「性的マイノリティ・LGBT」をどう教えるか T／L

WS-9　医療におけるジェンダーとコミュニケーション M／L

セミナー　医療コミュニケーション研究の現状（仮題） R

※セミナーと懇親会は、第11回RIASトレーニングワークショップと共通です。

＊記号（FELLOWSHIP）は、フェローシップ対応WS、他（M／L 等）は、アソシエイト認定のための学習領域を表しています。詳細は、MEDCホームページ「アソシエイト・フェローシップのご案内」をご覧下さい。

プログラム					
7日（金）	午後	WS-1	WS-2		
8日（土）	午前	WS-1	WS-2	WS-3	WS-4
	午後	WS-5	WS-6	WS-7	WS-8
	夕	セミナー			
		段階的な医療教育キャリアの支援：アソシエイトとフェローシップ			
	夜	懇親会			
9日（日）	午前	WS-5	WS-6	WS-7	WS-9

MEDC
MEDICAL EDUCATION DEVELOPMENT CENTER, GIFU UNIVERSITY
医学教育共同利用拠点
岐阜大学医学教育開発研究センター
TEL：058-230-6470 FAX：058-230-6468
〒501-1194 岐阜市柳戸1番1
E-mail：medc@gifu-u.ac.jp
MEDC 検索

WS-1　アクティブラーニング：やる気・関わり・深い学び　FELLOWSHIP　T／L

企画：**西城卓也**・丹羽雅之・今福輪太郎・川上ちひろ・恒川幸司（MEDC）、西屋克己（香川大学）

日時：8月7日（金）14:00-18:00、8日（土）9:00-12:30

概要：「学生は講義で寝てばかり」「新人看護師の学びが遅い」「研修医は、言われた仕事しかしない」「新人薬剤師にやる気が感じられない」・・・学生や新人に関する“愚痴”がしばしば議論されます。学習者を受動的から能動的に、依存的から主体的にするためにはどうしたらいいのでしょうか。近年注目されるアクティブラーニングは新しい概念ではありませんが、それでも学習者をアクティブにする方法に関してはまだまだ議論の余地があり、新たな挑戦を必要としています。世の中において自分の意思で変えられるものは、過去ではなく未来、他人ではなく自分です。学習者が徐々にアクティブになることを目指して、明日からの自分を変えましょう。本ワークショップでは、アクティブラーニングの概念を学び、事例を検討し、明日からの自分の教育実践に違いをもたらす計画を考えます。

対象：卒前・卒後にかかわらず、医・歯・薬・看・理学療法教育など医療系の教育にかかわっている人ならどなたでも。レベルは初～中級向けです。本ワークショップはMEDCフェローシップの一環として行われますが、ワークショップだけの参加でも学びがあるようデザインしています。フェローシップ参加者とともに楽しく学びましょう。（定員30名）

WS-2　臨床研修事務WS　M／L

企画：**鈴木康之**・川上ちひろ（MEDC）、青野真弓（聖路加国際大学）、尾原晴雄（沖縄県立中部病院）、伊藤俊之（滋賀医科大学）、渡辺文恵（岡山大学）

日時：8月7日（金）14:00-18:00、8日（土）9:00-12:30

概要：臨床研修が必修化して10年以上が経過し、研修事務職員の役割はますます重要になってきています。書類作成、データ管理等の事務的業務だけでなく、研修医や指導医に対する様々な支援の役割を担っています。このワークショップでは、全国の臨床研修事務担当者の皆さんにお集まりいただき、研修事務職員の役割と課題について討論し、先進事例や業務に役立つノウハウについて学び、卒後臨床教育の充実をめざして連携の輪を作ってゆきたいと思います。

対象：臨床研修病院（大学病院、一般病院）で研修事務を担当しておられる方（定員30名）

WS-3　シナリオベースで学ぶ多職種連携教育ファシリテーション　T／L

企画：**孫 大輔**（東京大学）、川村和美（シップヘルスケアファーマシー東日本）、鈴木佳奈子（4UrSMILE/家庭支援協会）

日時：8月8日（土）9:00-12:30

概要：本ワークショップは、主に医療現場で多職種連携を進めるため、シナリオ（事例）に基づいて、いかにファシリテーションしたらよいかについて学びます。多職種連携教育に携わる専門職や教員を対象に、①多職種連携の阻害要因と多職種連携コンピテンシーについて理解する、②自分の組織における多職種連携の阻害要因について分析する、ことが学習目標です。ワークショップの内容として、ある事例のビデオを見てもらった後、多職種連携の阻害要因についてディスカッションしてもらい、その後、多職種連携の原則について学びます。そして参加者各自の組織における多職種連携の上での問題や阻害要因をワークシートにそって分析し、それを改善するための教育方略について一緒に考えます。

対象：多職種連携教育に従事する、あるいは関心のある方（定員15名、専門職か否かを問いません）

WS-4　研究手法としてのインタビューをより効果的にするために　R

企画：**今福輪太郎**（MEDC）、布原佳奈（岐阜県立看護大学）、小西恵理（松江赤十字病院）

日時：8月8日（土）9:00-12:30

概要：質的研究手法による医療教育研究の中でも、データ収集方法としてインタビューを実施する研究は特に多くみられます。しかし、インタビューの後に「このことについてもう少し聞いておけば良かった」「どうしたら研究目的に合致した“より深い”コメントが引き出せるのか」と感じたことのある方も多いかもしれません。本ワークショップでは、インタビューによる研究の経験やそこでの難しさを参加者と共有し、その内容を踏まえてインタビューガイドの作成とロールプレイを行います。特に、半構造化インタビューでの効果的な“訊き方”と“聴き方”に焦点を絞り、全員で議論します。

対象：医療教育研究でインタビューを計画している方、または経験した方で難しいと感じている方（定員14名）

WS-5　歯科医療面接をどのように段階的に学ぶべきか？ – 医療コミュニケーション、診断推論そして行動変容　C D

企画：**伊藤孝訓**（日本大学松戸歯学部）、木尾哲朗（九州歯科大学）、長谷川篤司（昭和大学）、鈴木一吉（愛知学院大学）、吉田登志子（岡山大学）、藤崎和彦（MEDC）

日時：8月8日（土）13:30-17:00、9日（日）9:00-12:30

概要：歯科医療面接の教育は、医学教育を基本に取り組んでいるが、高齢化や医療の深化に伴う疾病構造の変化、そして歯科特有の多様なニーズや価値観を有する患者へ対応する臨床現場（実践共同体）との乖離が大きい。歯学系においても、共用試験OSCEにより医療面接教育は浸透しつつあるが、その実態は依然として医療コミュニケーションのテキスト仕様レベルにあり、人間関係の構築、推理・推論そして行動変容の教育へ繋がっていかないのが現況である。臨床現場における医療面接は、最初の歯科医学（医学）的介入であり、聴取（質問）だけではなく、説明（伝える）、インフォームドコンセント（承認・同意）、交渉（関係）、指導（患者教育：行動変容）の要素が含まれることを理解すべきである。そこで、本ワークショップでの議論を通じて、歯学系教育機関の医療面接教育を担当する教職員間において、医療面接教育における卒業時のアウトカムに至るまでの学習のロードマップを創出し、そして学習や評価法にかかわる水準などについての情報共有をはかるものである。

対象：医療面接の教育にかかわる歯学系の教員、医療職（定員30名）

WS-6　未来の医師を現在どう育てるか?変化への適応能力は万全か　M／L

企画：**高橋優三**（兵庫医科大学）、黒田知宏（京都大学）、岡田唯男（亀田ファミリークリニック館山）

日時：8月8日（土）13:30-17:00、9日（日）9:00-12:30

概要：我々が日々改善に取り組んでいる医学教育は、現在の患者に対応できる医師の育成に力点を置いています。しかし近未来、日常備品に組み込んだ人工知能が鑑別診断をし、ビッグデータがベテラン医師の経験とカンを凌駕します。この時、医療はどのように激変するのか？それを担う医師の役割と能力は、何か？人間医師であらねばできない仕事は、残されているのか？まさか医師不要の時代・・・。この不透明な第４次産業革命の時代に医療を担う人材を、まさに我々は、現在育てているのです。彼らには、現在への対応能力だけではなく、未来に起こる変化への適応能力が必要なのです。この適応能力/柔軟性こそ、実は、あらゆる意味で医師に重要な能力であり、医学教育で、もう少し注意を払うべきではないでしょうか。たとえば柔軟性さえあれば、個人が卒後10年でキャリアを変更するのも可能でしょうし、また、医師の硬直的な専門の間隙に嵌まり込んで途方に暮れる患者の数が減る、等々、現在進行中の問題の軽減も可能です。参加の皆さん、近未来に激変する医療体制と、それに伴う医療人の役割の未来予測に知恵を貸してください。そして現在の医師・医療における硬直性の弊害も教えてください。これら２つを視点として、現在を生きつつ未来にも適応できる柔軟な医師を育成する医学教育を一緒に考えていただけませんか？

対象：医師育成に興味のある方（定員30名）

WS-7　卒業時OSCE実施の実際とパフォーマンス充実のための工夫　A
－日本の国情に合った理想的OSCE実施のポイントと各科医学教育の質保証－

企画：**長谷川仁志**（秋田大学）、田川まさみ（鹿児島大学）、石川和信（福島県立医科大学）、石川鎮清（自治医科大学）

日時：8月8日（土）13:30-17:00、9日（日）9:00-12:30

概要：医学教育の国際認証・外部評価時代に入り、卒業時などにおけるパフォーマンス評価としてのOSCEを充実させる必要性が高くなってきております。一方、大学によって様々な事情があって、日程、体制、課題作成、範囲、評価者、模擬患者、シミュレーターの問題、評価の実際と課題など、進めていく段階で課題が生じることも多いと思います。本ワークショップでは、これまで卒業時OSCEを進めてきている秋田大、鹿児島大、福島県立医大、自治医大の取り組みの実際や体制づくりのエッセンス、カナダの国家試験OSCEについての情報を共有するとともに、分野別国際認証をにらんで医学生の臨床能力評価におけるこれからのOSCEの位置づけと実際の運用について考えてみます。参加者の皆さんからの事前アンケートにも対応し、明日からすぐに役立つ実践的な情報を学習できるワークショップを企画しております。是非、日本の国情に合ったこれからのOSCEの実際について考えてみましょう。OSCEにかかわる教職員の皆様の参加をお待ちしております。

対象：OSCEに関わる医療系教職員、臨床指導者（学部、臨床研修、専門医研修）（定員20名）

WS-8　医学部で「性的マイノリティ・LGBT」をどう教えるか　T／L

企画：**青木昭子**（東京医科大学）、阿部恵子・松尾かずな（名古屋大学）、星野慎二（NPO法人SHIP代表）、宮島謙介（しらかば診療所）

日時：8月8日（土）13:30-17:00

概要：性的マイノリティ・LGBT（同性愛者Lesbian、Gay、両性愛者Bisexual、性同一性障害者Transgender）について学ぶことは、患者背景の多様性に対応した医療の実践のためにも不可欠ではないでしょうか。医学教育モデル・コア・カリキュラムには、AIDS・性行為感染症の項目はありますが、性的マイノリティ・LGBTに関する項目は含まれておらず、正規の授業で教えている大学は少数です。本ワークショップでは、性的マイノリティ・LGBTについての授業の実践例を紹介するとともに、学習内容や学習方法の工夫についてグループ討議したいと思います。

対象：性的マイノリティとその啓発や教育に関心のある方（定員15名）

WS-9　医療におけるジェンダーとコミュニケーション　M／L

企画：**Debra Roter**（Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health）、野呂幾久子（東京慈恵会医科大学）、飯岡緒美（東京大学）

日時：8月9日（日）9:00-12:30

概要：欧米では、これまで医療者と患者コミュニケーションを、ジェンダーの観点から分析した研究が数多く行われている。その第一人者が、米国Johns Hopkins UniversityのDebra Roter 教授である。Roter 教授は、医療者、患者のジェンダーと診療場面のコミュニケーション・スタイルの関連や、医療者、患者のジェンダーが患者アウトカムに与える影響などについて、多くの研究を行っている。一方、日本では、女性医師、男性看護師の割合が少なかったこともあり、この分野の研究はまだ少ないのが現状である。しかし医療コミュニケーションをジェンダーの視点から検討することは、単に男女のコミュニケーションの違いを明らかにすることにとどまらず、日本の医療文化における社会的地位とジェンダーの関係や、患者の評価がジェンダーとの関連の中でどのように形成されるのかなどについて、より詳細な姿を浮彫にする可能性がある。本ワークショップでは、まずRoter教授から、診療場面でのコミュニケーションをジェンダーに関連して評価する新しい試みとその影響について、研究紹介をしていただく。その後、日本での医療コミュニケーションとジェンダーの関連について、医師を中心に野呂から、薬学を中心に飯岡から報告する。

対象：医療のコミュニケーションをジェンダーという視点から見ることに関心をお持ちの方（定員30名）

セミナー　医療コミュニケーション研究の現状（仮題）　R

講師：　**Debra Roter**（Johns Hopkins Bloomberg School of Public Health）

日時：　8月8日（土）17:10-18:10

概要：　対人医療コミュニケーションの量的研究の分析ツールとして、もはやグローバルスタンダードになった感のあるRIAS（The Roter Method of Interaction Process Analysis System）の生みの親であるJohns Hopkins大学School of Public HealthのDebra.L.Roter先生を招いて、世界的な医療コミュニケーション研究の現状について お話を聞かせていただくまたとない機会です。是非、多くのみなさんにご参加いただきたいと思っています。

※第11回RIASトレーニングワークショップと共通です。

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

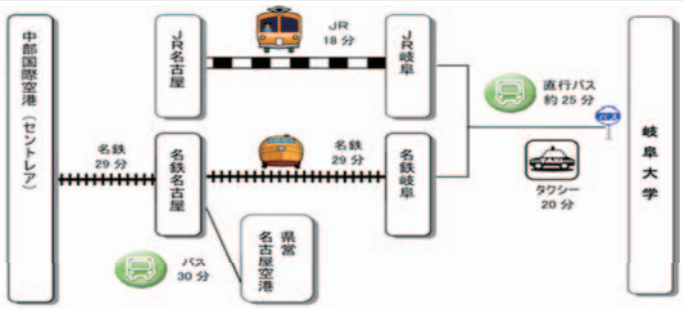
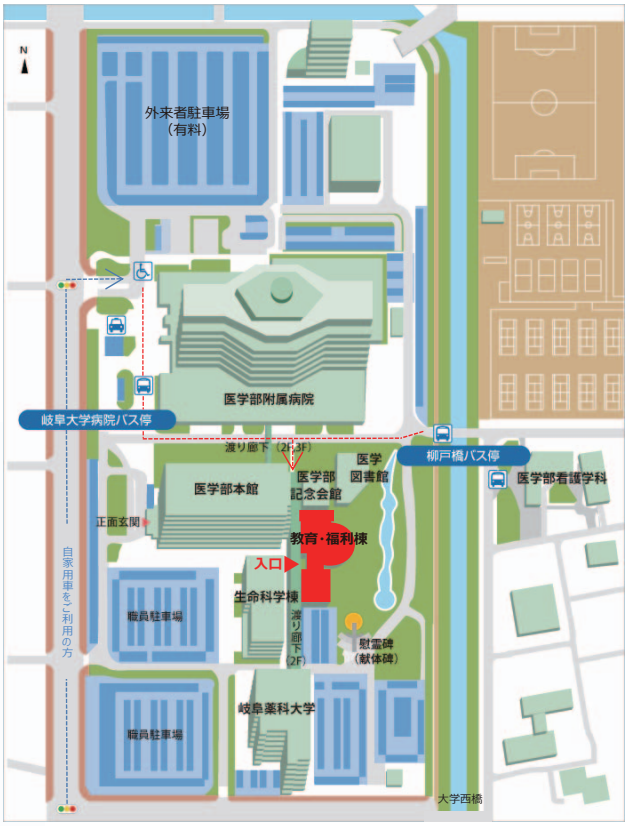
締め切り：2015年7月26日（日）

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費：　2,000円（資料代）学部学生無料

懇親会費：　4,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
資料代は、資料ならびに第57回セミナーとワークショップの報告が収載されている、「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。参加者には後日、「新しい医学教育の流れ」の冊子およびCD-ROMを送付いたします。（学部学生への送付はありません）

会　場：　岐阜大学医学部 教育・福利棟
（〒501-1194 岐阜市柳戸1-1）

JR岐阜駅9番のりば　C70系統バス
岐阜大学病院バス停（終点）または柳戸橋バス停（終点の1つ手前）で下車